

「お米屋さんって何?」～子供達から学ぶ事、伝える事～

にしだ ひろあき
ニシタ米穀(株) 代表取締役社長 西多 寛明



住所: 加古川市別府町新野辺1247
TEL: 079-437-8055
営業内容: 米穀・プロパンガス小売

平成19年10月11日、農水省の補助事業、「ごはんパワー教室」の講師として、私が初めて教壇に立ったのが、この日。場所は市内小学校の教室。お米のプロ「お米マイスター」が小学校に赴き、お米の素晴らしさを子供達に知ってもらう事を目的としたこの事業スタートの日、同時に、この事業の難しさを目の当たりにした日でもありました。

それは、子供達からのこの質問「お米屋さんって何?」でした。今の子供達にとって「お米屋さん」は「知らない人」なんです。「皆さんのお母さんは、お米どこで買

われていますか?」との問いにスパーの名前をあげる子供がほとんど、子供達にとって、この日の授業は、「お米屋さんって何?」という知らない人の話」だったのです。

「米屋とスパーの違い」。この事をわかりやすく答えることが出来ないから、「米屋の魅力」がお客様に伝わらないんだという事を子供達から学びました。

子供達からの質問はいつも想定外! その度に質問に対する説明を考え、翌年の授業の内容に加え、いつの間にか私の授業の内容は、当初10枚ほどのシナリオが50枚を超えるものになり、そうすることで、子供達に「お米屋さん」を理解してもらえるようになって来たのです。

東日本大震災の発生を機にこの事業も大幅縮小、兵庫県の「おいしいご飯を食べよう県民運動」事業から教材をいただいでの実施となりました。県の教材は、「お米の素晴らしさ」よりも、「稲作の必要性」についてと、兵庫県が制定した記念日「1・17おむすびの日」についてでした。

その後の授業では、特に私は、「おむすびの日」と「田んぼの役割」についての内容を盛り込みました。「おむすびの日」については、阪神淡路大震災を知らない子供達にとって、「炊き出し」と言った言葉も解らず、なかなか

か理解が苦しいようです。

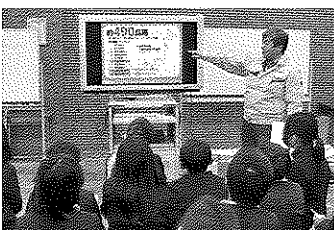
「田んぼの役割」については、平成23年の台風12号で志方町が水害となった田んぼの写真を紹介。収穫間近の田んぼの稲が水に浸かって倒れてしまった写真を使い「大雨の時、田んぼは、たくさん水を蓄えることが出来るんです」と説明。すると、ある子供が、「この前の大雨の時、家の前の道路がびちゃびちゃになった。去年までは、大丈夫だったのに、家が建ったからかな?」と話してくれました。子供達にも、この事が理解出来るようです。

どんどんと街から姿を消す「田んぼ」。これでいいのだろうか?その事を次代の子供達に問いかけるのが、私たち、お米マイスターの仕事ではないでしょうか。

「ごはんパワー教室」も今年で12年目。最初に教えた子供達が大学を卒業する歳になりました。いつかそんな教え子が、子供を持つ親になり私のお店にやって来てくれることを夢んでいます。

今年も、いよいよ平成30年産新米が収穫される「実りの秋」。子供達にとっても、「実りの秋」となるよう、今年の授業も頑張ります!!

もちろんそれよりも、「お米の販売」が第一ですが(笑)



授業風景